

北九州ビオトープ・ネットワーク研究会 総務大臣表彰を受賞 里山、海の保全活動評価 22日表彰式

2008年12月13日 02:16

里山や洞海湾の保全活動に取り組む特定非営利活動法人(NPO法人)「北九州ビオトープ・ネットワーク研究会」(若松区)が、本年度の総務省の「地域づくり総務大臣表彰」を受賞することが決まった。多様な活動と研究面での貢献が評価された。22日に東京都で表彰式がある。

研究会理事長のデワンカー・バート北九州市立大国際環境工学部准教授(43)は「驚き、喜んでます。市民、自治体と一緒に取り組んだことが認められたのでは」と話している。

研究会は2001年に発足し、会員は現在20人。市立大ひびきのキャンパス周辺の若松区、八幡西区で主に活動している。

具体的には、市民と竹林で竹の間引きをしたり、田んぼで親子連れと田植えから稲刈りまで体験したりするほか、生物観察も実施。また、川でのカヌー乗り、ムラサキイガイを用いた洞海湾の水質浄化にも取り組んでいる。

総務大臣表彰の団体部門では、ほかに16団体が受賞する。バート理事長は「今後も地道に末永く活動を続けたい」と話している。



北九州ビオトープ・ネットワーク研究会の活動を紹介するパネルを手にするバート理事長